

まちづくりの取り組み状況

本市では、平成30年度からの10年を計画期間とする長期的なまちづくりの指針である「第二次山口市総合計画基本構想」に基づき、5力年ごとに基本計画を策定し、取り組みを進めています。後期基本計画2年目の令和6年度は、「ずっと安心 元氣山口」予算と位置づけ、「今の市民生活を豊かにし、安心して元氣に暮らせるまちづくり」、「農山村と都市が共存共栄するまちづくり」、「未来に向けたチャレンジを支えるまちづくり」の3つの視点のもと、「ずっと元氣な山口」の実現に向けたまちづくりに取り組みました。ここでは、昨年度の本市のまちづくりへの取り組みと成果を紹介します。（図1参照）

図1 本市の総合計画の位置づけ



図2 後期基本計画（令和9年度まで）における取り組み状況

	取り組みが順調な指標数
全 体	108 指標
子育て・健康福祉分野	22 指標
教育・文化・スポーツ分野	17 指標
安全安心・環境・都市分野	33 指標
産業・観光分野	15 指標
協働・行政分野	21 指標

達成度が70%以上の指標の個数

※「まちづくり達成状況報告書」は、ウェブサイトで確認できるほか、各総合支所等でご覧いただけます。

成果指標を設定し、市民アンケートなどを基に評価

第二次山口市総合計画では、政策を5つの分野に区分し、本市が目指すまちの実現に向けて、まちづくりの進み具合や事業の成果状況を客観的に把握・分析するため、305の成果指標を設定しています。

この成果指標は、市民の皆さんを対象に行っている「まちづくりアンケート」の結果などを基に評価し、「まちづくり達成状況報告書」（※）として毎年公表しています（図2参照）。

物価高騰等に対応した経済対策の取り組み

総額約27億円

エネルギー・食料品価格等の物価高騰の影響を受けた市民や事業者に対する支援の取り組みを進めました。

子育て・健康福祉分野

子育て家庭の負担軽減に向けた取り組み

- ・こども医療費助成制度の対象年齢を高校生世代まで拡大
- ・第2子以降の保育料を無償化
- ・1歳児健康診査の公費負担化
- ・小児のおたふくかぜワクチン接種費用を一部助成
- ・学校給食費の公費負担を拡充（物価上昇分を公費負担）

待機児童解消に向けた取り組み

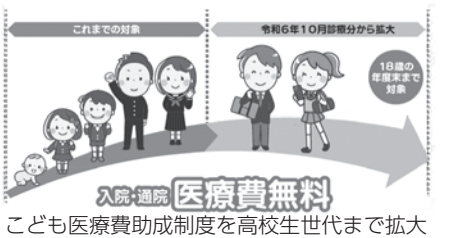
- ・保育園等の定員を合計27人拡大
- ・放課後児童クラブの定員を合計365人拡大
- ・保育士等の人材確保に向けて、私立保育園等に就職する新卒者への支援制度を創設

健康都市づくり・地域福祉の推進

- ・带状疱疹ワクチン接種費用を一部助成
- ・高齢者および障がい者の外出機会の創出に向けて、タクシー利用券の1乗車あたりの助成額を拡充

その他の取り組み

こども家庭センターを中心とした子ども・子育てに関する相談支援体制の強化、済生会山口総合病院の建て替え支援、介護人材確保に向けた資格取得・更新費用の助成 など



教育・文化・スポーツ分野

教育なら山口

- ・ALTや留学生と英語での交流を図る English Village の内容の充実や、海外とのオンライン授業について、実施校数・開催回数を拡充して実施
- ・山口情報芸術センター[YCAM]との連携による「やまぐち子ども未来型学習プロジェクト」として、地域の魅力発見に向けた「360°図鑑」や文化祭等でのデジタル壁画の制作などICTを活用した取り組みを実施

歴史・文化を生かしたまちづくり

- ・国宝瑠璃光寺五重塔の檜皮葺屋根全面葺き替え工事に対する支援
- ・山口市菜香亭開館20周年を記念した企画展や記念講演を開催

スポーツ・地域資源を活用した地域活性化

- ・レノファ山口FCと連携して、市内小学校や地域イベントでの交流活動を開催
- ・小学生の競技力向上を目的に、元プロ野球選手によるジュニア野球教室を開催
- ・気軽にさまざまなスポーツが体験できる「山口市スポーツフェスタ」を開催

その他の取り組み

山口市小郡文化資料館開館30周年記念事業の実施、中原中也記念館開館30周年記念事業の実施、鋳銭司郷土館開館40周年記念事業の実施、市立中学校の部活動地域移行に向けた取り組みの推進、ホノルル市との友好都市提携に向けた取り組みの実施 など

産業・観光分野

中小企業、地場企業への人材確保支援

- ・インターンシップの立ち上げや改善に取り組む市内中小企業等への伴走支援を実施するとともに、学生が企業を取材し、学生目線で企業の魅力などを分析する「ロケハンツアー」を実施
- ・中高生を中心とした職業体験イベント「やまぐち未来のしごとフェスタ」を開催
- ・バス・タクシーの運転士確保を目的とした就職奨励制度を創設
- ・省人化・省力化につながる機器の導入支援を実施

農林水産業の振興に向けた取り組み強化

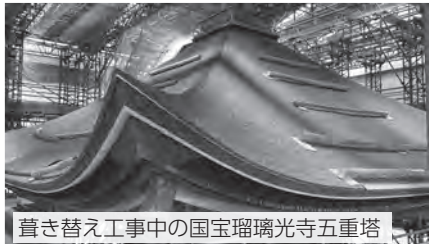
- ・農業の省力化や生産性向上に向けて、スマート農機等の導入支援を実施
- ・農林水産業の新規就業者に対し、機械器具の整備支援や家賃補助、経営安定化に向けた経営自立化支援金を活用した支援を実施
- ・道の駅「仁保の郷」の機能強化整備、道の駅「あいお」の移転整備を推進

国内外からの観光誘客拡大に向けた取り組み強化

- ・ニューヨーク市マンハッタン「ジャパンパレード&ストリートフェア2024」にて海外現地プロモーションを実施
- ・湯田温泉こんこんパーク開館に向けたプレイイベントとして、大屋根広場での開催を想定したスケート体験会などを開催
- ・インバウンド向けパンフレットの作成、多言語サイトの充実など、インバウンドの受入環境整備を推進

その他の取り組み

重源の郷体験交流公園のリニューアル整備、農山村エリアの地域資源を活用したビジネス創出の支援、鋳銭司第二団地の完売、女性が働きやすい環境づくりへの支援 など



安全安心・環境・都市分野

■ ソフト・ハード両面からの災害対策

- ・都市整備部に「河川治水課」を新設し、市域全体の災害治水対策のマネジメント機能を強化
- ・問田雨水ポンプ場や長通り雨水幹線の整備、移動式排水ポンプ設備等の増設など、雨水排水対策を強化
- ・河川氾濫等の浸水被害を軽減するため、危険度の高い箇所の集中的な浚渫工事を実施
- ・災害対応能力の強化に向けて、災害情報をオンライン上で共有できる「総合防災情報システム」および市民向け防災情報サイト「山口市防災ポータル」の運用を開始し、災害時の迅速かつ的確な避難情報の発信・支援体制を強化
- ・災害時の拠点となる公共施設の防災機能の確保

■ 脱炭素先行地域の取り組み推進

- ・再生可能エネルギーの地産地消に向けて地域新電力会社「山口グリーンエネルギー株式会社」を設立し、山口市役所新本庁舎（山口総合支所）をはじめとする公共施設に対して、電力供給を開始

■ 中心市街地の活性化

- ・中心商店街アーケードのバリアフリー化、美装化を実施
- ・山口情報芸術センター〔YCAM〕との連携による子どもの遊び場「コロガルあそびのひゃっかてん」を実施

その他の取り組み

国道9号の道路改築の早期事業化および国道2号の4車線化・歩道設置の整備促進に向けた取り組み、まちなかウォークブルの推進、徳地生活バスにおけるAIデマンド交通の実証運行の開始、シェアサイクル実証実験における電動アシスト付き自転車の新規導入およびサイクルポートの増設 など



移動式排水ポンプの整備・稼働



浚渫工事



人々で賑わう中心商店街

協働・行政分野

■ 元気な地域コミュニティづくりに向けた取り組み

- ・地域の愛着や誇りを育み、地域活性化につなげる事業等に対して、地域の未来づくり促進特別交付金を交付
- ・自治会等が実施する防犯灯設置に対する補助限度額を拡充
- ・平川地域交流センター建替え整備を推進
- ・阿東地域交流センター生雲分館の多目的広場整備に向けた用地取得、測量設計を実施

■ 「もっと便利な山口市役所」に向けた取り組み

- ・便利な窓口サービスの実現や防災機能の強化に向けた新本庁舎棟の整備および庁舎前広場等の実施設計
- ・窓口支援システムを活用した「書かない窓口」の試験運用を開始
- ・マイナンバーカードを利用し、住民票等をオンラインで請求できるサービスを開始

■ シティセールスの推進

- ・「地球の歩き方 山口市」の発刊決定を契機とした情報発信の強化など、本市の認知度向上を図るためのプロモーションを展開

その他の取り組み

山口市パートナーシップ宣誓制度の開始、公用車を活用したEVカーシェアリングのステーション増設、粗大ごみ個別収集のオンライン申込時における決済方法の拡充、移住・定住促進に向けた取り組みや、地域おこし協力隊をはじめとした外部人材の活用 など



地域の未来づくり促進特別交付金を活用し制作された「徳地まるごと百人一首」



「地球の歩き方 山口市」(令和7年10月9日発売)



市政トピックス



ウェブサイトでも公開中

山口市誕生20周年記念式典を行いました

10月4日(土)に山口市誕生20周年記念式典を行いました。

本市は、20年前の平成17年10月1日に、山口市、小郡町、秋穂町、阿知須町、徳地町の1市4町が合併し、新たな「山口市」としての歩みを始め、平成22年には阿東町が加わり、現在の山口市の形となりました。



▲功労者表彰式の様子

市長は、「これまで、安心して住み続けられるまち、人々から選ばれるまちを目指して、都市政策の柱に『広域県央中核都市づくり』と『個性と安心の21地域づくり』の2つを掲げ、旧1市5町を新たな『県都山

口』として再構築を進めてきた。新市誕生から20年を迎え、これまでの『合併モードのまちづくり』から『新たなまちづくりのモード』へ移行することで、皆様と共に『ずっと元気な山口』をつくっていききたい。そして、次代を担う子どもたちにも、将来、『これが私のふるさとだ』と言える、そのような山口市を目指したい」とあいさつしました。

式典では、地域づくりや自治会活動、保健医療や経済等の分野において、本市の発展にご貢献いただいた57団体と1個人を表彰したほか、20年の歴史を振り返る映像アーカイブやオンラインによる20歳の市民のリレーメッセージも披露されました。

また、式典終了後には、國學院大學観光まちづくり学部長・教授の西村幸夫氏による「地域それぞれの個性を活かしたまちづくりのこれから」と題した特別講演会が行われました。

問 総務課 ☎ 083・934・2908

湯田温泉こんこんパークの入館者が10万人を達成しました

令和7年6月1日に開館した湯田



▲記念撮影の様子

温泉こんこんパークの入館者数が、10月8日(水)に10万人に到達し、記念セレモニーを開催しました。10万人目の入館者となられた、市内在住の久富さん親子には、花束と記念品が贈られました。久富さんは「こんこんパークはよく家族で利用しており、1歳の息子は遊具と大きな階段、小学生の娘は足湯が気に入っている。私はマルシェ等のイベントに参加しており、心も体も癒されている」と話されました。市長は「湯田温泉こんこんパークには、温泉施設や遊具、カフェ、休憩スペースのほか、大屋根広場でさまざまなイベントを行っており、いろいろな楽しみ方ができる施設。ぜひこれからもしっかりと利用してほしい」と感謝の気持ちを伝えました。

温泉こんこんパークの入館者数が、10月8日(水)に10万人に到達し、記念セレモニーを開催しました。10万人目の入館者となられた、市内在住の久富さん親子には、花束と記念品が贈られました。久富さんは「こんこんパークはよく家族で利用しており、1歳の息子は遊具と大きな階段、小学生の娘は足湯が気に入っている。私はマルシェ等のイベントに参加しており、心も体も癒されている」と話されました。市長は「湯田温泉こんこんパークには、温泉施設や遊具、カフェ、休憩スペースのほか、大屋根広場でさまざまなイベントを行っており、いろいろな楽しみ方ができる施設。ぜひこれからもしっかりと利用してほしい」と感謝の気持ちを伝えました。

温泉こんこんパークの入館者数が、10月8日(水)に10万人に到達し、記念セレモニーを開催しました。10万人目の入館者となられた、市内在住の久富さん親子には、花束と記念品が贈られました。久富さんは「こんこんパークはよく家族で利用しており、1歳の息子は遊具と大きな階段、小学生の娘は足湯が気に入っている。私はマルシェ等のイベントに参加しており、心も体も癒されている」と話されました。市長は「湯田温泉こんこんパークには、温泉施設や遊具、カフェ、休憩スペースのほか、大屋根広場でさまざまなイベントを行っており、いろいろな楽しみ方ができる施設。ぜひこれからもしっかりと利用してほしい」と感謝の気持ちを伝えました。

表紙の写真「伝統が息づく荘厳な舞」

表紙の写真は、阿東嘉年地域にある嘉年八幡宮で奉納された土居神楽舞の様子です。

土居神楽は石州舞に属するもので、日本神話を題材とした演劇の要素を持っています。大正時代初期、島根県より講師を招き、定着したものといわれています。昭和時代初期までは、阿東地域にはいくつかの神楽がありました。現在残っているのは土居神楽のみであり、本市の無形民俗文化財に指定されています。

土居神楽舞保存会では、伝統芸能の継承のため、祭事に限らず、さまざまな場で舞を披露されており、本市がホノルル市と友好都市提携を結んだ際の祝賀会でも披露されました。言葉の壁を超えて、舞の一挙手一投足の力強さと美しさから、日本の文化を感じられている様子で、興味深く見入っておられました。

問 広報広聴課 ☎ 083・934・2753



▲ホノルル山口県人会の方が土居神楽舞の衣装を羽織られている様子